

目指す学校像	力がつく学校 力のある学校 感動いっぱい 与野南中 ～生徒・教職員・保護者・地域～
重点目標	1 基盤となる生活面の安定と学びの自律化と個別最適化 2 安心・安全の保障と学校事故の防止 3 地域とともにある学校づくりの推進 4 教職員の持続可能な働き方と資質の向上

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価					学校運営協議会による評価			
年 度 目 標					実施日令和7年2月20日			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<b>【学力向上に関する取組】</b> (現状) ○多くの生徒に落ち着きが見られ、問題行動はほとんどない。地域・家庭の教育力もあって、見守り・見守られ意識が高い。学年が進むほど休みがちなる生徒が多くなる傾向にある。 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査において、国語・数学・英語の、全国、市平均と比べ、概ね良好である。考えたり表現したりすることにも積極的である。 (課題) ○既習事項を活用して思考を深めさせ、その外化のあり方の工夫と機会を増やすこと。 ○「個別最適な学びと協働的な学びに関する指導方法の研究」の研究を進捗させること。基礎・基本の徹底と学び方の学びの両立もまた課題である。	・生徒指導・教育相談の充実  ・個別最適な学びの実践と、学びの自律化	①安全・安心のもとで発言できる雰囲気醸成するため、学級や教科における話し合い活動を充実させ、目的意識と当事者意識をもった思考、活動を経験させる。 ②毎学期の個別面談や適時適切な支援・相談により、いじめや課題の早期発見、早期解決に繋げる。 ③生徒指導の充実のため、生徒指導委員会と教育相談委員会は計画的に活動し、組織的な対応を行う。	①協働的な学びとしての話し合い活動を学級で行事に合わせて1本、各授業で学期に3本以上実施できたか。 ②生徒一人ひとりを大切に、悩みや相談、課題等に対し、誠実、迅速に、組織で対応できたか。 ③生徒指導委員会と教育相談委員会は中心・指導的な立場で活動ができたか。 ④学校評価において、生活面の項目で肯定的割合が生徒90%以上、保護者85%以上、生徒指導・教育相談の項目について肯定的な回答が教職員から88%以上となったか。	①各学級において協働的な学びとしての話し合い活動を行事や各授業で学期に3本以上実施でき、学校評価の話し合い活動の項目では、生徒96%が肯定的な回答をしている。 ②心と生活のアンケート後の個人面談を効果的に活用し、生徒一人ひとりに寄り添った相談を担任や組織で丁寧、迅速に行うことができた。 ③生徒指導委員会と教育相談委員会が中心・指導的な立場で活動し、学年、学校運営に活きていた。 ④生活面の項目で生徒90%、保護者88%、生徒指導・教育相談について教職員90%以上の肯定的回答となり、昨年より一人ひとりと関わることもできた。	B	①相互評価を「協働的な学び」の中核となるので継続的に研究を進める。 ②面談等から生徒の実情を把握、経験や助言から分析、対応方法を決定し、組織で取り組み、個に寄り添って指導する。 ③学習指導のベースとして、生徒指導委員会と教育相談委員会を中心・指導的な立場で活動させることを継続する。	・今年度、学校に来ていない生徒数は、昨年度と比べ増えているのか。今年度は与野南中のS o l a る一むへ登校している生徒は微増している。15名ほどいる。市のGrowth、私営のフリースクール等への参加者は10名ほどいて、個別の学習をしている。次年度も継続を希望する。 ・生徒一人ひとりへ教育相談に力を傾注すべきと考える。
2	<b>【安心・安全に関する取組】</b> (現状) ○毎月の安全点検により施設・設備の安全点検を遺漏なく行い、迅速な修理にあっている。 ○体罰・暴言・不適切な指導の発生については昨年度はなかったが、指導にあたっての教職員の言動について保護者からの指摘が1件あった。 ○SNSに関わる生徒指導が2件発生した。 (課題) ○教職員の安全に対する意識は高いが、詰めが甘さを感じられるときがある。 ○SNSについては多くの者が安全意識を高く持っているが、しっかりと対応する必要がある。	・教職員の安全に対する意識の向上と実践  ・生徒を取り巻く環境の安心・安全の確保	①会計事故防止のため、学年と部活動会計で、統一様式のものを使用し、監査も定例化する。 ②安全点検を定期的に実施し、併せて管理訪問型の点検を定例化する。 ③ハラスメント防止と不適切指導未然防止のための研修会を実施する。	①会計事故の未然防止を具体的にを行い、遺漏なく監査報告に至ったか。 ②月に1回の安全点検と学期に1回の管理訪問型の点検を行えたか。問題箇所への即応をしたか。 ③職員会議、校内研修会等の機会にハラスメント防止の研修を実施できたか。	①監査報告は年2回実施できた。 ②月に1回の安全点検を実施でき、問題箇所へ概ね即応できた。学期ごとに事務職員を含め、修理等の検討できた。 ③職員会議でハラスメント防止のための研修をした。	B	①今後も学年会計の監査は、年2回の実施を継続する。 ②毎月の安全点検実施と学期ごとの見直しを継続実施する。 ③ハラスメント防止と不適切指導未然防止のための研修会を継続する。	・現状のままで維持し、いじめ認知やSNSについての安全教室は今年度同様に継続を希望する。 ・もはや家庭の問題なのでは…と思える部分もあり、それを学校から働きかけてくださっている点、働きかけようとしている点、大変ありがたく感じます。
3	<b>【開かれた学校づくりに関する取組】</b> (現状) ○学校運営協議会立ち上げ後5年目を迎え、アフターコロナにシフトする中、生徒が地域で活躍する場面も多くなることの期待は大きい。また、PTAや後援会、育成会からの応援や肯定的な声も多く聞かれる。 ○学校からの情報発信にホームページが有効ではあるが、ICT等の活用も求められている。 (課題) ○学校運営協議会の中での、理想の生徒像や地域についての十分な熟議を行う。熟議に生徒会が参加できる場を設定する。 ○実際、学校を目にする機会を多く設け、地域に学校間交流の活性化を進める。	・学校・家庭・地域で共に活動するコミュニティ・スクールの充実  ・たよりやHP、安心メール等を活用した発信と教育活動参観の機会設定	①地域の方々からの学校理解を深め、関わりを多くするために、新たな取組を創出する。 ②学校教育の一貫性を担保するために中学校区小学校との連携を強化する。	①学校運営協議会の前に十分な準備を行い、熟議が深まるようにしたか。熟議に生徒会本部役員が参加できたか。地域清掃活動等を企画・実施できたか。 ②児童の把握のための兼務教員派遣と小学校の情報共有ができたか。校区4校校長会を定例化できたか。	①学校運営協議会前に校長が生徒会役員との話し合い、学校運営協議会につなげる工夫をした。民生委員・主任児童委員連絡会を夏休み中に開催した。埼玉大学1年生との交流を実施した。 ②3小学校に兼務教員を派遣、児童把握に努めることができた。校区4校校長会を定例化はできず、行事に合わせて実施した。	A	①学校運営協議会へ生徒会の参加を継続、教員の参加を検討する。民生委員・主任児童委員連絡会、大学との交流も継続する。地域清掃活動のあり方の模索を継続する。 ②児童の把握のための兼務教員派遣と情報共有を継続する。校区4校校長会を継続、会場の持ち回りを検討する。	・今年度、生徒と共に熟議できたことは良かったです。1つのテーマを掘り下げ、進めていくスタイルだったのでやりやすい。今年度のあいさつのテーマが反映されるのを期待する。
4	<b>【教職員の資質向上に関する取組】</b> (現状) ○市委嘱の研究「個別最適な学びと協働的な学びに関する指導方法の研究」に今年度から2年間取り組む。「単元内自由進度学習」のあり方も含めた授業力アップに学校を挙げて取り組むことが求められている。 ○教員の在校時間数はICT利用により減少した。多忙感は相変わらずであるが、多くの教職員は職場環境を肯定的に受け止めている。 (課題) ○「個別最適な学びと協働的な学びに関する指導方法の研究」の取組を強化しつつ、新たな学び合いを進める。 ○教職員の計画年休の取得を促進する。	・教職員の資質の向上に関する取組	①研究の中間まとめを行うために、個別最適化に向けた計画的な授業実践を行う。市教委、他小中学校、外部機関等との連携による研究体制整備を行う。 ②職員同士の縦横の繋がりに加え、個々の職員が外部の協力者や社会と繋がり、学ぶ機会を推奨する。 ③疲労回復と視野を広げるための機会とするために、計画年休の取得を促進する。	①研修会を月1回開いたか。「個別最適な学びと協働的な学びに関する指導方法の研究」に関する新たな授業スタイルを意識した授業が実施できたか。 ②職員個々が計画した人事評価における「研修」が予定通りに進め、結果として90%以上、目標が達成を実感することができたか。 ③学年内で話し合い、計画的な年休取得とその間の体験の共有を行えたか。	①中間発表に向けて研修会を月1回実施できた。新たな授業スタイルとして、単元内自由進度学習の手法を取り入れたTDLを全教科で実施した。 ②教員へ研修への助言は自己評価シートに基づく面談時に話せた。結果として80%以上、目標が達成を実感できた。一定のアドバイスは行ったと認識している。 ③個人差はあるが、計画的な年休取得は不十分、労働時間短縮はできた。	B	①本発表に向けて研修会の月1回実施を継続する。教科の特性に合わせたTDLを全教科での実施を継続する。「自己評価と相互評価」、「リーディングDX」の研究を進める。 ②教員に向けた研修会を紹介し、学びの機会を増やすことは継続する。 ③働き方に工夫を加えて計画年休取得を促進する。	・勤務時間内での電話対応やスクリーン等の活用で、今後ゆとりが持てるよう期待する。

